

光の子

発行／社会福祉法人光の子どもの家

編集／光の子 編集委員会

〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277

TEL／0480-72-3883

振替 東京3-128022

印刷 (株)ドモン企画



軽井沢で遊ぶ
子どもたち

見えると言ひ張るところに

(ヨハネ・九・一―四二)

理事長 福島 勲

美しい景色を見ると絵のようだという、巧みな絵を見ると本物のようだとしか表現できないわれわれは、気の毒な状態をみて、ああ可愛そうにといった程度に終って、それ以上どうしようなどとの考えも浮んでこない。

透視術者のような眼をもとうとは願わないまでも、事の真実を見判断の誤らない目はほしいものである。

さらに悪いことに気の毒に追い打ちをかけ、一層あわれさを増すようなことさえしてかしかねない。

眼鏡をかけてカメラをぶらさげている人を外国でみかけたら、それはたいいてい日本人だと言われて久しいが、眼鏡をかけても、物事を正しく見極め得ない人間の悲哀を感じる。

知者の目はその頭にある、との聖書(伝道の書二、一四)の言葉は、単に賢いとか愚かとかいう知者でなく、神を恐れ、神を知る知者である。

身体の器官の成長過程で目が一番早く、十四才くらいで完成する。そして、四十才にもなると、そろそろ老眼鏡が必要になってくると聞いた。

その人の目は頭の中にあるいわゆる心眼である。しかもあたたかい愛の心でみる目である。

肉体の眼の悪さはいたしかたないとしても、色めがねで物事をみるのは困りものだ。先入観や固定観念で、ことさらに曲けて人や物をみては、それらは生かされない。目が悪ければ全身暗い(マタイ六・二三)目が澄んでおれば全身も明るい(ルカ十一・三四)

美しい目は感じがい。睡眠不

美しい目は感じがい。睡眠不

養育二年目を迎えて

施設長 今関 公雄

足の日や酔眼もろろつといった目
はいただけない。
日露戦争のときの米国の従軍記
者オシュバンが、乃木大将の眼は
澄んで美しかったと書いている。
戦争の中で眼が美しいなどと観
察する人に興味をもつ。

ささいなことを理由に人を目の
仇のように憎む。逆に目に入れて
も痛くないという溺愛。口ほどに
物をいう目を愛な色目に用いたり
めくじら立てて怒ったりする。

「見えるようになるために目薬
を買いなさい」(ヨハネ黙示三・
十八)

生れながら目の不自由な人をみ
て、弟子たちはイエスにたずねた
本人の罪なのか、親の罪なのか
と。イエスはこれらを否定して、
神の栄光のあらわれるためだと言
って、奇跡をもつて癒された。

イエスは人の苦しみ悲しみの原
因を追求されないで、未来の結果
を望みをもつてみることを示され
る。

見えると言ひ張り、自己を正し
い者として主張するところに、罪
があると指摘される

施設長の住民登録拒否事件で、
波瀾の船出をした養護施設「光の
子ども家」の歩みも、この七月
十一日で二周年を迎えることがで
きた。この一年、文字通り無我夢
中で子どもたちの養育に当たり、
施設経営に腐心してきた。お陰様
で、少し先が見え始めてきそうな
感じで二年目の養育活動に入るこ
とができたことに感謝にあたえま
せん。

さてこの一年間の歩みから、幾
つかの真実を身をもって学ぶこと
ができましたので略記します。
まず第一は、子どもは正直なも
のである、ということ。大半
の人は、親の離婚、病氣等によ
る養育困難によるものです。その
ため、大人や親にあまり手をかけ
られずに育ち、施設にたどり着き
ます。幼児に主に見られますが、
咽嚥、えん下、排泄の困難な子も
います。学童でも野菜嫌いや肉嫌
いなどの偏食や言動に解決しなけ
ればならない課題をもつ者もいま

す。これらはまさに養育の不足に
よるもので、子どもは養育のあり
ようを見事に表現します。
光の子ども家での生活に伴い
少数責任担当制と小舎制(家庭的
養護)による養育が威力を発揮し
ます。子ども五名(以内)に担当
保母一名、一軒二世帯十名(以内
の構成で限りなく家庭に模した
生活を展開します。母性的役割の
保母による食事から入浴、就寝ま
での生活を、父性的役割の指導員
を中心とする男子職員による学習
や役割分担などの生活習慣などを
一般の家庭と変わらない暮らしが
営まれていきます。子どもたちは
約一ヶ月程で情緒の安定が見え出
し、約三ヶ月で表情に豊かさが見
られるようになり、子どもの本
来的な輝きをとりもどします。

これは、信頼関係の回復と所属
意識の充足の成果だと思います。勿
論、遅速に個人差があります。こ
のような子どもの態度変容を見て

つくづく子どもの正直なことを実
感しております。養育する者が手
をかけたただけ子どもの成長に正直
に反映されるといえます。この
背後には夜を日に継いで労を厭
わない職員のとくくみがあります。
子育てに楽な方法はないことを学
びます。人さまの子どもを育てる
のに手抜きは許されません。

次に、雨降って地固まるの譬え
の真実を思い出します。

一年前の激しい反対運動が、あ
る種の生産的な緊張関係を双方に
もたらしたことを感じます。地元
の人々には優しさやおもひやりが
問われ、私たちには子どもの養育
の真価がより厳しく問われること
になりました。もともと私たちに
中途半端なとりくみなど考えられ
るものではありませんでした。

ごく一部を除いて、誠実な報道
に共感して沢山の真実な支援者が
与えられ、心強い限りです。

養育二年目も、「神は万事を益
となす」(聖書)の真実を信じて、
益々励みます。

これからも更なる御支援賜らば
幸いです。

エッセイ 私の8・15

鈴木 栄子(俳人)

昭和20年8月15日、私は埼玉県
熊谷市で終戦を迎えた。その年の
3月10日、東京大空襲で罹災し、
母は油脂焼夷弾で左足首から裸に
かけて火傷した。千葉方面へ行く
縦武線の線路の下で、枕木が燃え
落ちてくる火の粉を防空頭巾に受
けながら一夜を明した。

3月9日の夜、今夜はいよいよ
だめだと思い、八方から照らし出
される照明灯の中のB29の姿をハ
ッキリ見ながら、祖母、母、私の
三人は家を出た。家を出るときは
また帰れると思った。幼稚園時代
から貯めこんだ24色のクレヨンの
幾箱や、ダースものの鉛筆、沢山
の消しゴムが頭をかすめた。

女三人はどこへ逃げる当てもな
く、ゾロゾロと人の後についてい
った。人々はインキ会社の屋内休
憩場ほどの倉庫に逃げ込んだ。こ
こに居れば助かると思った。だが
すぐ会社の責任者がきて、出てい
くよう要請された。しかし、それ

は正解であった。翌朝一面の焼野
原の中で倉庫の在り処さえ定かで
はなかった。私達はアウシュビッ
ツの惨害をまぬかれた。

二ヶ月ほど東京の親戚、知人宅
を転々として、母の足の治療をし
た。油脂焼夷弾の火傷は意外に深
く、ガーゼを替えるとき骨が見え
た。リヤカーを借り、パンクした
自転車も借り、母を乗せて転居の
先々の病院へ通った。罹災説明書
があれば医療が受けられた。その
紙一枚が唯一の財産と救いであっ
た。

二ヶ月ほどして、やっと母の足
が地を踏めるようになり、祖母が
待っている熊谷へ落着いた。東京
から一世帯分の荷を疎開させてあ
ったので、伯母の家の二階でわが
家の疎開生活が始まった。

ところが終戦の一日前の8月14
日また熊谷で空襲にあい、再び無
一物となった。今度は伯母の家も
焼けてもう居候は出来ず、建材の

配給を受け、町中に4坪ほどの借
地を得て、ネズミ小屋を建てた。

母は仕事がないので露店商の鑑
札を受け、闇市で焼下駄を中心と
した「なんでも屋」を始めた。

私は紹介して下さる方があって
熊谷聖公会幼稚園で資格を持たな
い保母となった。牧師先生が園長
で、その奥様と私の三人であった。
園児は年少組、年長組合わせて
35名位であつたろうか。赤レンガ
の轟のこの教会付属の小さな幼稚
園は、再び得た平和の表徴のよう
であった。毎日終ってから奥様に
ピアノを習った。しかしバイエル
もあげないうちに上手に上げて
しまい、一本指で「結んでひらい
て」を弾く情けない見習い保母と
なった。そんな私を子どもたちは
みんな慕ってくれた。当然ながら
私は絶対に「品賃」はすまいと思
った。人みしりをする子には遊技
の輪で手を繋ぎ、いじめられっ子
には組踊の相手になった。遊び時
間にはみんなを回りに集め一人一
人とお話をし、膝に抱いて爪を切
ってやった。

そしてクリスマスが来た。聖夜
配給を受け、町中に4坪ほどの借
地を得て、ネズミ小屋を建てた。

劇は毎年きまりの劇があつた。「
イエス降誕」と「マッチ売りの少
女」をやることにした。「マッチ
売りの少女」には貧しい老婆の役
がある。楽しみにしているクリス
マスの聖夜劇の舞台に、どの子を
擔擧をまもった老婆の役に出来よ
うか。そんな役は振れない。貧し
い老婆は貧しい少年に替え、衣裳
も科白も変えた。

「家には弟や妹が待っています。
どうぞボクにお恵みを——」少
年になった少女はなかなか可愛
かった。園長先生はニコニコ見て
いた。奥様が後で「鈴木先生は優
しいから」と一言言って下さっ
た。そんな一語も勉強をあきらめ
て、奮然たる気持で前途を案じて
いた私をどんなにか力づけてくだ
さったことか。

年があけて卒業生を送り、私も
又洋裁学院に入るため、短い保母
生活を終えた。私の唯一の教を子
たちに、その後一度も違っていない。



現場から 育ちゆく子らと 4

秋元 光代

Eちゃんは五歳の女の子です。Mちゃんや新しく来たお友だちのK子ちゃんと、毎日、楽しく幼稚園に通っています。折紙や粘土遊び、そして、クローバーで首飾りや髪飾りを作ってもらうのが大好きです。座って手先を動かしていることが好きな、ちよっと太りぎみの子猫のような女の子です。五歳の子らしくあまり問題なく成長していて、つい気にかけることの少なくなるEちゃんです。それでも、私たちをとっても驚かせたり、悩みの中に引き込んだりします。

これは、私だけでなく、その場に居合わせた小学一年生のM姉ちゃんにまでショックを与えた出来事です。

夜、いつものように、一階の子五人が、自分の布団に座ったり、寝転んだりして、私の読む絵本を見ていました。Eちゃんも、笑顔で少しふざけながら見ていました。絵本が終わり、皆布団に入り、電

灯を消して静かになった時です。

「ウッ、ウッ」という変な音が聞こえてきました。また誰かがふざけているのだと思い、しばらくそのままだんその間隔がせばまってくるのです。「誰？」と云ったとたん、「ワッ」とEちゃんが大きくむせるように唸ったので「Eちゃん、どうしたの」と、身を起こすと、我慢できなくなったように、それでも声を抑えて泣き出したのです。M姉ちゃんが心配して「どうしたの」と聞いても泣いたまま答えません。

Eちゃんはその日、お母さんと外出したり、楽しいことがあったので、何故急に泣き出したのか初めは分かりませんでした。少し落ち着いてから、やっとボツリボツリ話してくれました。「あのね、M(Eちゃんの兄)とY(Eちゃんの姉)とね、ジャスコへ行って、遊んだの」それを聞

たとたんM姉ちゃんは息をのんで黙り込んでしまい、私も、Eちゃんから兄姉のことが話されたことで一瞬、驚いてしまいました。

Eちゃんの日常のなかで、初めてお母さん以外の家族のことを口にしたからです。やはりEちゃんはお母さんと同じように、兄さん姉さんとも、いつも一緒に居たい大切な人たちなんだと、今さらのように思われ、慰める言葉もすぐにはありませんでした。

離婚した母親に引き取られたEちゃんが、父親と一緒の兄弟と会うのは難しいことです。私たちからの依頼により、幼稚園の行事にお父さんが来てくれたり、兄妹関係の回復などのために、ここで子どもたちを遊ばせて下さったり、元の家族みんなで外で夕食を下さったりが、ほんの数回ありました。いつまでそんな関係が続くのか、これからどうなるのか、まだ分からないことがいっぱいなのに、こんなに思いを深くしてしまい、不安になってしまいました。それまで、いつもEちゃんの心には母親しか居ないと思っていま

したが、元々家族全部が一緒だったのです。母が来ないと恋しそうに泣き、父が来てくれるとニコニコしても可愛い顔をし、兄弟の忘物を取り出しては、いつ来ると寂しそうなEちゃんになりました。

夏休みにお母さんのところへ泊まりに行くと約束したEちゃんは、毎日迎えに来てくれる母を待ちました。なかなか来てくれないお母さんを持って夏休みも半ばになる頃、親元へ帰省する子を見てはベソをかき、日に日に不安定な様子を見せるEちゃん。事情によってお母さんが泊まりに来てくれることになり、楽しい五日間が過ぎました。しかし、利口なEちゃんは大人の話がある程度分かれます。持っていた寂しさや悲しみを忘れるほど甘えられたでしょうか？

何か焦っているような母との会話、チラと見える不満そうな態度、不安を感じながらの時だったように思えます。

これからの関わりの中で解決しなければならぬ大きな課題に胸塞がる思いです。Eちゃんと一緒に懸命に超えなければ……

現場から

光の子らしく

3

岩崎 まり子

身長一〇七センチ、体重十九キロ、お腹ブククリ、足は胴よりやや短く顔も身体もどちらかというとどっしりした感じのK君、四才五ヶ月。

身長九一センチ、体重十二キロ、顔はブククリ下ぶくれで、足は必しも細くはないけれど、全体的に見るとやはり華奢なAちゃん、三才六ヶ月。

この二人が、手をつないで歩いている後姿に私は、保母として、担当者として、ひとりの人間として、どれだけ助けられたか、わかりません。

あのK君が、あのAちゃんが、こんなに素晴らしい兄妹のような関係になれるとは、誰が想像したでしょう。

ここにやって来た頃のK君は、ひどい泣き虫で、みんなの「ごっこ遊び」の中でも「K怪獣」と言われただけで大声で泣いてしまう始末でした。それに加えて、言

語達が遅れ、不明瞭極まりなくお兄さんらしさは勿論、赤ちゃんのまま大きくなったようでした。

一方、Aちゃんは知的には問題なく発達していましたが、何時も「K君、そうじゃないよ!」とよ。ねえ、まい(り)子さん」と半ば馬鹿にさえしているような雰囲気さえありました。

けれど、そのような子どもの関係の貧しさは、断じて子どもが作り出したものではなく、大人の意識の貧しさによると、ある先輩保母に指摘されました。

頼もしい兄としてのK君と素晴らしい妹としてのAちゃんという関係を目標にしてとりくみました。AちゃんにとつてのK君、KくんにとつてのAちゃん。一方的な関係ではなく、相互関係のなかで、自分らしく成長できるように、そんな願いも、泣き虫のお兄さんと甘えられない妹の姿を目の当たりにすると、自分の力量

のなさが、子どもたちの状況に重なり、崩折れそうになることがしばしばでした。

ところが、二人がお互いを仲間として意識する日は、意外に早くやってきました。

六月九日、退職した圭子さんの代わりに、仙道家にK君とAちゃんをつれて三人で引っ越しした日から、二人の関係は、目に見えて変化しました。

K君は、自発的につとめてお兄さんらしくなろうとし、態度は勿論、口振りまでそうなってきました。それに応えるようにAちゃんの、担当である私の次に甘えられる人はK君になりました。

先日、私の留守に喧嘩した泣き虫Aちゃんが「Kくん」とK君のひざの上で甘えて泣いたそうです。

今では、誰よりも——時には私よりも——早くAちゃんの泣き声に反応するKお兄さんです。Aちゃんも、「K君のお隣り!」「K君と手をつなぐ!」とKお兄さんを慕っています。それで、度が過ぎて嫌がられたり、「Aちゃ

んはK君とでしょ!」とほかの友だちから疎んじられることもしばしば。AちゃんもKくんもそんな中で、人との付き合い方を学んでいくのです。許されることや、その範囲、善悪の基準や忍耐、大切なことや不要なもの、しなければならぬことやしてはいけない事などなど。普通の子どもたちが家庭で学ぶように。愛されながら。人として育つために。人として人を愛する為に。

幼い命たち。つなげて、つなげて、慰めあい、励ましあって、成長し合う命たち。私も、彼らが成長し合う為の環境の一部でありたいと願います。子どもたちが、大人——心の大きな人——に成長しますよう心から祈ります。

今、K君は一才上のT君を、Aちゃんは一才下のNちゃんをそれぞれ視野に捉え始めています。弟としてのK君、Aお姉さんに変わる時もやがて訪れるでしょう。ガンバレ! K君。がんばれ! Aちゃん。頑張れ! 命たち。

採光 子どもと共に

倉沢 典子

佐藤家の人たちと、一緒に生活するようになって、四ヶ月がすぎました。しだいに生活のリズムが見えてきた段階のようです。まだまだ不十分で、自分が何をしているのかもはっきり分らないような者です。

もしキリスト・イエスへの信仰がなかったら、逃げ出してしまっているにちがいありません。

私がイエスに向かっていったわけでもなく、(とてもそんな力などありません)「ごめんなさい」と謝ったわけでもないのに、みじめに崩れ落ちていくしかないような絶望的な者を救って下さった。後になってから、神がなさったというのを教えられました。

私が祈ったことは、「十字架の苦しみの意味を教えてください」ということでした。本当に滅んでゆくことは、恐ろしいことであることも知らされました。神への信仰を知らなかった時も、どんなに豊か

に多くのことが恵まれていたことか、徹底して教えられました。今、ここにこうして存在しているのも、神の愛とあわれみによるものと心から感謝します。

話がだいぶそれてきたように思いますが、ここで、子どもたちと一緒に生活していく中で、どうしても、書かなければならない必要を感じていたので、書きました。

子どもに服をしなければなりません、私があまりきちんと育てられなかったせい、無感覚な時もあるようです。また子どもに注意などして「自分はどうしているか」と心に問われてしまっているか。自分ができていないことを子どもに求めている、うしろめたさは嫌なものです。しかし、子どもと一緒に課題から逃げないで、克服する喜びを共にしながら、関係性を深めていきたいと思えます。

子どもに関わり、生活することは小さなことの積み重ねです。ど

ちらでもいいようなことが多くあります。その少しの小さなことをするなかで、失敗し心碎かれて反省し、またやり直し、喜びや悲しみを分かちあい、慰め、励まし会えるような働きができた良いと考えています。

ただいま、佐藤家では大人三人子ども八人です。どの子どもにも親と一緒に暮らせない淋しさや悲しみがいっぱいなのです。自分の生い立ちが、どんなにきちんとしていなかったとしても、その悲しみや淋しさは、どうなのかなど、想像もできません。心の拠りどころがない。不安定になったり落ち着かなかったりするの、頷けま

す。幼い子が、朝起きて「お母さん、お父さん」と呼んでいる時など、子どもたちの親たちや、家族のことなどを思います。どんなになっても、親は親です。人から悪く言われたり、酷く思われたりする

ものの立場に立たなければならぬと思います。親や家族を、ほんの少しでも非難するような態度をとってしまったら、子どもとは違う立場に立ってしまうと思います。いつも表には出しているわけではありませんが、その子にとって最も大切な人々です。イエスだった、どのように接するだろうか？彼はこの世で、見捨てられた者、しいたげられた者の友になりました。

「子どもを愛する」ということは、どういうことなのか、分からないことはいっぱいあります。限りのないことのように思われますが追いついていこうと思えます。

子どもが生き生きとしていて、こちらにもそれがピンピン感じられ、喜びがある時は、何か心が一つになっているんだなというように思われることに、最近気付かれました。

神様、どうか子どもの心が理解でき、その心とともに歩める者にして下さい。

養護メモ 5

憐れみ深い人々は……

菅原 哲男

養護施設光の子どもの家は、親や家族と一緒に暮らすことのできない子どもたちが、家族に代わる人々と暮らす家庭になることを願って建てられた。

普通の家族が家庭で暮らすように限りなく近くなるとするとりくみとは別に、見学者 ボランティア、実習生の受け入れを積極的に行っている。

もし、普通の家庭で普通に暮しているあなたの家に、人の暮らしについて勉強したいので宿泊して実習させて下さい。と申し出られ

全国的な統計による平均的な情報であったとしても、子どもたちの生活現場での報告は、その情報の匿名性を無効にしかねない。しかし、児童福祉の問題はすぐれて社会的な問題である。それは個人の問題でありながら、この時代と文化を考えずには済まない。離婚も疾病も服薬も……そして、何よりも光の子どもの家の精神的経済的な多くのことからを社会的な振替りの中に依拠している。社会的に解決されなければなら

ない問題を、社会に還元してやる方途の極めて稀少な状況のなかで見学に来て下さる人々や、ボランティア、実習生の方々にその責めを負っていただきたいと考える。そうでなければ、敢て普通の暮らしを目指しているなかに、不自然さをしのぐ意味はない。

見学者、ボランティア、実習生などの人々への役割期待を充分に伝えるための準備や手段を検討し

て受け入れることで、その効果をあらため、生活現場にそれらの人々が立ち入ることを、子どもたちが許容されることを願っている。

離婚や交通事故、疾病などはそう珍しい事ではなく、マスコミに載ることも稀なほど日常化した今日、それほどこだわらなくても、と言われる向きもある。しかし、数字や統計の情報としてでなく、生きている人の暮らしの風景を思い、自分との関わりをなかにとらえ返してみることが肝要と思う。

ある日、あなたが外出から帰ると、御両親に呼ばれる。お父さんから「おまえは、父さん母さんの幸せを心から願うか？」と問われ

たら勿論「はい。」と云うに違いない。「喜んでくれ、二人でよく話し合った結果、お互いの幸せのために離婚することにした。」と

告げられたら……普通のあなたは飛び上がって喜ぶだろうか……。普通の生活のなかで、親と子ども

自分の子であるCちゃんを、自分たちの期待どりに育たないからとDさん夫妻の子であるFちゃんと取り替える相談をしたりするだろうか。

どんなに自分の子どもに不満があったとしても、誰とも交換など出来る筈がない。家族・とりわけ親子のかけがえのないことが、人のもつかけがえのなさの基礎を成すと考える。それは、賢さ、美しさ、何かが出来るかどうかなどとは全く関わりなく。共に暮らし居ることだけがいい。

家族に代わる私たちの仕事は、そんなかけがえのない関係のなかからはみ出し、拒否された子どもたちと関わり、全く無条件のかけがえのない関係をつくりあげていくことなのである。個人では不可能である。光の子どもの家という集団でも不可能である。すべての人が関わって、互いに役割を担うことで限りなくそれに近づけていく方法しか今は見えない。

社会と福祉が一つの熟語となり名実ともに実体を成す日のために是非、お立ち寄り下さい。

日誌抄

六月十六日
八月十五日

六月十七日 第五七回職員会議。

初めて迎える夏休みを、日頃の子どもの関わりの欠けを補い楽しく美しい思い出と、充実した時にして一回り大きくなろうと確認、家族への関わり、諸行事の計画などを協議。

二二日 北本市教育委員会より十二名の校長先生が見学。熱心な質問や有意義な御助言など。

二五日 埼玉真指導監督。児童記録、家族関係の希薄な子どもへの関わりなど特に御評価されました。今後の取り組みへの励みになりました。

二六日 数日前より発熱が続いていた佐藤家のT君(三才) 久喜市十屋医院で、原因不明の難病と言う川崎病と診断され、そのまま入院。石毛保母が付き添い看病。乳児院に入所している妹のほかに全く身寄りを持たない稀な境遇のT君に集まる不遇、不幸、不運の不条理。

七月七日 七夕。鎮守のお祭り。

去年は、羨ましそうに見ていた神輿をかつぎ、町内を元気にねり歩きました。ワッショイ!

十二日 T君、十六日間離れず休日も付き添い続けた石毛保母と一緒に「ただいま!」と退院。元氣な声にみんなひと安心。微熱が続いている不安も早くふき飛ばそう!

十四日 O君四才入所。圭子さんの退職で人事が落ち着くまでの間、仙道家倉沢保母が担当。

十九日 羽生市産業文化ホールでの御招待で、チェコ少年少女合唱団のコンサートへ。とても素敵なたた。心からありがとう。

二二日 小学校、幼稚園の夏休みが始まる。子どもたちとともに迎える初めての夏休み。職員一同この期間の関わりがこの年の内容を左右する、しっかり取り組みようと再確認。

二四日 仙道家T君六才。昨年、乳児院から入所以来、全く行方の知れなかったお母さんお義父さんが来訪。約三年振りの再会。

二五日 埼玉真遊技業組合より多額の御寄付。夏枯れ寸前の会計

に特効のカンフル。感謝。

二六日 筋向かいの荻野秀俊さんご一家のお招きで職員二名子ども二名が海水浴へ。楽しい一日とイキのいいおみやげ。感謝。

八月一日 開設一周年記念礼拝。理事長より労いと励ましの言葉と記念品。新任職員二名の就任式、辞交交付。第三回連絡協議会。入所年令制限撤廃ならず。

四六日 東大宮教会夏期学校。小学生四名と丹羽指導員参加。

五日 日本生命財団よりの大型ユニットプール設置。初めてプールに入る二才児も含めて、デッキ贈り物に大喜びの子どもたちの歓声が、夏中。感謝。

七日 造成した地盤の沈下がひどく、園庭に昨年敷設した枕木の底上げ作業を実施生の坂巻、大沢、斉藤、河森田君たち、男職員ら、東大宮教会有志と青年会も一泊ワークで。重労働を灼熱の太陽に炙られて、この夏も。

九十一日 千葉県千倉海岸へ今年も町内青木自動車修理工場、千倉町網元徳寿丸の御協力で。空と海と善意に感謝。(かぶ)

反射光

○この春に蒔いたコスモスが各家の入り口の花壇に咲き乱れています。どの家の保母さんも好きなんだろう、この花の似合う季節です。○コスモスのように笑いさめきながら学校へ、高い空に抜けるような歓声を上げて幼稚園に行く子どもたちの、ひと夏過ぎて確実にひと回り大きくなった姿に目を疑う思いです。○それにしても、十才以上の入所制限を依然として変えない大人たちの成長度はどうしたことだろう。○仮に、問題行動と言われる状態になったとして、子どもがそこから、確実に変化し、成長することを信じ、そのために何が必要かを、大人も一緒に考えるべきであらう。○誰も失敗を願ったわけではないが、失敗の経験のない人はいない筈だ。失敗は成功の母と昔から言われているように。○自由な投稿などを集め載せたいと「採光」欄を設けました。皆さまの声をお待ちします。

○千倉の海で、軽井沢の高原で培った、体と情緒をこの秋実らせ、皆さんとともに喜びたい。(哲)